



KANAIWA ONO
ART PROJECT

金石スタジオ 通信

2

金沢21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)の活動の拠点となっている金石スタジオ(金石松前町1番16号)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

AIR
アーティスト・イン・レジデンス

東京理科大学 伊藤香織研究室

2月27日(日)に金石調査の報告会を開催します

二〇二一年十月に、東京理科大学の学生である私たち三人が約三週間にわたって金石に滞在し、金石スタジオやまちなかで「あなたのまちの使い方・小学生時代と今」と題して金石の皆さんに小学生時代の遊び場を中心としたお話を聞かせいただきました。これは、金沢21世紀美術館と東京理科大学理工学部建築学科伊藤研究室との共同研究の一環として行われたものです。直接お話を伺う聞き取り調査だけではなく、その前後にまちなかで生活する体験もしました。金石がもつ独特の空間・文化・暮らしを身体的に感じたいと思ったためです。

滞在初日、まず初めに驚いたことは夜間の静けさです。入り組んだ路地のみならず大通りまでもが、夕方六時を過ぎるとしんと静まり返る。これは非常に衝撃的な経験でした。それからなんととっても、人の温かさや人と人との距離の近さを強く感じました。通りでは少しの行き交いでも必ず挨拶が交わされ、銭湯では浴場の中と外で会話が行き来する。何より私たちも、まちなかでの調査の際には明るく声をかけていただき、夕食やおみやげにと何度もたくさん差し入れをいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

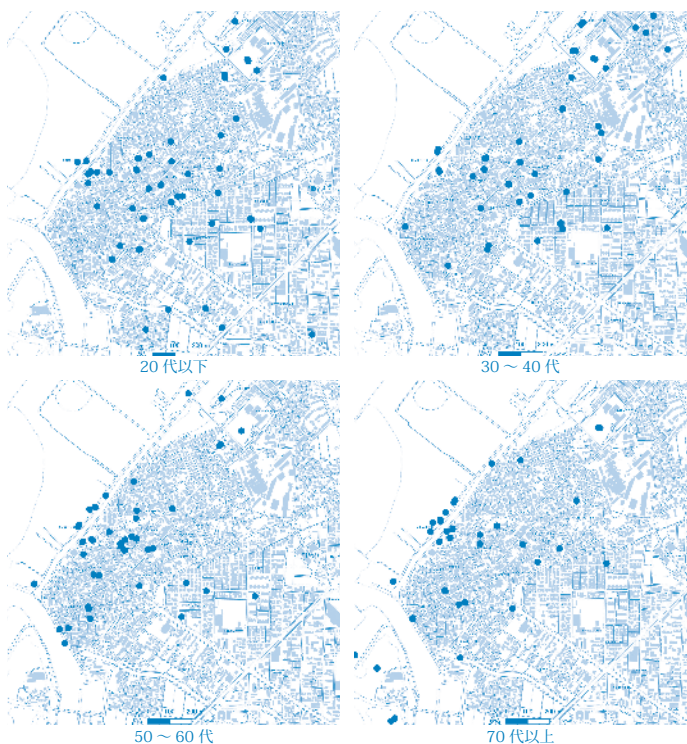
「あなたのまちの使い方・小学生時代と今」の調査では、金石スタジオにて六十四名、児童館にて二十五名、街頭にて二十六名、計一一五名の方からお話を伺いました。神社でのかくれんぼや、路地でのゴム飛びといった遊びのこと



2021年10月の調査の様子

が多く挙げられました。また、日和山・秋葉神社ほどの世代でも共通して挙げられています。現在はお聞かせいただいた遊び場に関する内容に対して、金石の街路の形成年代や幅員構成、商店・公園・寺社の分布など、まちの空間的な構造を重ね合わせた分析をしている最中です。最終的には、金石のまちに内在する「場」のようなものが人の生活行動にどのように影響しているのかを見つげたいと思っています。(天野航一、坂口太一、中積弥恒)

[各年代の児童期の遊び場]



★金石調査報告会
2月27日⑧13時30分〜15時
場所：金石スタジオ
発表者：天野航一、坂口太一、中積弥恒(東京理科大学理工学部建築学科)
定員：25名(当日受付)
二〇二一年十月に行われた「あなたのまちの使い方・小学生時代と今」の調査報告及び意見交換をします。是非お越しください。※新型コロナウイルス感染症拡大の状況等により、予定を変更する場合があります。詳細は美術館ホームページをご覧ください。

PP パブリック プログラム

週末屋台

【実施レポート】
かないわみやのこし食堂



週末屋台 野菜販売

私たち「かないわみやのこし食堂」は、金石スタジオで行われている週末屋台に毎月第二・第四土曜日出店しております。昨年十一月より、本格的に活動を始めさせていただぎました。これまで、農家さん直送のお野菜の販売やオリジナルトートバッグ作り、紙漉き体験、撮影会などを行い、子供はもちろん大人の方にもお楽しみいただきました。

近頃様々な要因から、体験をする機会や多世代交流の機会の確保が難しい世の中に

なっておりまして。コロナ禍ということももちろんですが、核家族・共働き世帯の増加や防犯面で、たとえ近隣住民であっても、平日頃から交流のない方に声をかけると不審者かられると地域の人から聞く事があります。確かに子供と防犯は切っても切り離せない関係にあり、指導することとは大切です。しかしながら、親以外の方々とコミュニケーションから得ることがあるのも事実、自然なかたちで交流する場が作れないかと考えました。

そこで私たちは、楽しい体験を通して地域の方々と交流の場になればと活動を始めました。様々な世代の方との交流は学校だけでは学べないコミュニケーションの学習の場でもあり、地域活性化にも



金石スタジオでこども食堂の準備

繋がる重要な取り組みだと考えております。加えて、生活困窮者やひとり親世帯への支援はもちろん、孤食防止にも取り組みたいという思いから、こども食堂を開設し、毎月一回お弁当の配布を行っております。『こども食堂』と聞くと、生活困窮者やひとり親、お子様連れの世帯のみが対象というイメージが強く、『私達はご飯に困っていないので』と遠慮される方のお声も多く聞かれます。しかし、本当に困った方々はなかなか利用されないのが現状です。それは何故か、『そういう人だと後ろ指を指される』ことが嫌だからです。生活に困っている事を隠している人が現代には多くいらっしゃいます。そのような方々が利用しやすくするにはどうしたら良いか、他のこども食堂で一年半学びようやくたどり着いた答えが『地域の方々みんなで利用する事で、気軽に来て頂ける食堂の雰囲気を作る』事でした。お友達同士で来る、近所の方やママ友から誘われたから、という理由があれば利用しやすいという事です。また、最近SDGの観点からフードロスについて問題

を取り上げることが増えてきました。こども食堂には農家さんや生産者様はもちろん、個人菜園や流通業と様々な方が「廃棄する食材を使ってください」とお声をかけてくださることが多いです。

このような様々な課題に私達は取り組みたいと思ひ活動を行っております。まだまだ課題も多くございますが、子供たちをはじめ地域の方々の楽しい声が響き渡る様な金石になるお手伝いができたら幸いです。(吉野大地・ちはる、かないわみやのこし食堂)

★かないわみやのこし食堂
問い合わせ先: kanaiwa.
miyanokoshi@gmail.com

※活動の詳細はFacebook / Instagram / LINE
「かないわみやのこし食堂」で検索

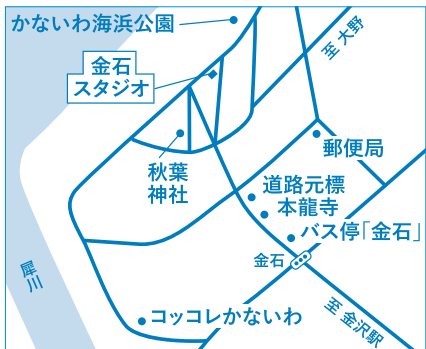


こども食堂の様子



金石スタジオ
金石松前町1番16号

バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。
スタッフ常駐は、毎週土曜の14時〜17時です。



金石スタジオ
情報発信中 /
Instagram
facebook